

別冊 おおいしだものがたり

～資料館資料編～

川柳から見える江戸時代のひな祭り習俗

大石田雛人形展より

資料館では「大石田雛人形展」を開催中です。女の子のいる各ご家庭でも、3月3日や昔ながらの4月3日におひなさまを飾ってお祝いするのではないのでしょうか。今回は川柳から伝わる江戸時代のひな祭り文化をご紹介します。川柳は俳句のような制約がなく、主に人事や人情を題材にしており、当時の風俗や人々の感情がストレートに表れています。

「薪ほど乳母の里から桃の花」3月3日は本来「上巳の節句」ですが、桃の節句とも呼ばれるようになりました。女の子の節句を周囲の人たちで祝うのは昔から変わらないようで、乳母の実家から桃の花（枝）が薪ほども大量に届いた、というもの。

「十軒で乳母が見付ける里の母」これは天明期頃の川柳です。当時雛市といえば日本橋十軒店。3月の節句を前に見つけた里の母とはお嫁さんの母親で、初節句のお祝いを求めに訪れていたのでしょう。この頃の雛人形は、縁者から贈られるのも珍しくはなかったようで、「初の雛ころあたりが二三軒」「雛の箱まだふみも見ず明けたがり」という句もあります。先の句は、贈られる前から貰う算段をする様子。後の句では初節句を祝う手紙には目もくれず、娘が人形の開封をねだる様子が見えてきます。

「あれ雛を使ひやすよと姉の声」「紙雛に角力とらせる男の子」「朝敵を姉手にあまし母加勢」女の子にとっては楽しいひな祭りも、男の子にはどうでしょう。第一句は雛人形で勝手に遊ぶ弟に対する抗議の声。第三句は、内裏雛に手を出す弟を朝敵に見立てて母が姉に加勢する場面。この雛＝内裏の見立てで「洛外へ風呂敷を足すけちな雛」があり、「初節句貰ふたんびに立て直し」と合わせると情景が見えてきます。江戸前期頃の雛飾りは、毛氈に一对の内裏雛を置き、背後に屏風を立てるシンプルなものでしたが、付随する人形や道具類の増加に伴い、雛段の数も増えていきます。現在のように組み立て式の規格はないので、雛段作りは一仕事でした。初節句に贈られる雛に合わせて、その度に建て直してみるものの、最終的には「洛外」へちょっと風呂敷を延べて間に合わせる、といったところでしょうか。他にも、当時の雛文化を教えてくれる句があります。

「樟脳に包んで置いて蕎麦をひく」「そば切りを上げてむすめはくびをぬき」一句目は明和期のものですが、この頃は雛人形を仕舞う時に、蕎麦をお供えしていたようです。二句目の、蕎麦をお供えする微笑ましい行為の後に続く「首を抜く」という動作の対比が、少しドキッとさせられます。同様のものに「あさつきのなますしんぜて猿轡」があり、大石田でいうカド（鯨）のように、春を告げる食べ物をお供えしたことが窺えます。

今回ご紹介した他にも、ひな祭りを詠んだ川柳は多数見つけられますが、そのどれもが子どもの健康と幸せを願う心が生み出す可笑しみが伝わってくるものです。

「大石田雛人形展」は4月7日（日）まで



楽がき帳

暖冬という長期予報はやっぱり外れて今年も大雪。そんな中開催された雪灯ろう街道、日中は子どもたちの笑い声が響き、夜には町じゅうに作られた個性的な雪像や灯ろうに、明かりが灯りました。雪が降らなかつたためか、撮影のために町内をまわった夜になつても雪像にはスプレーの色がきれいに残っていて、色鮮やかで力作ぞろいの雪像を見てまわりました。今年特に目についたのはNHKの人気番組のキャラクター、チョコちゃんの雪像。町内あちこちに見つけたチョコちゃん、ほーっと見ていると叱られそうです。（あ）

町の人口 平成31年2月1日現在

世帯数	2,348戸	(-3)
総人口	7,111人	(-19)
男	3,490人	(-5)
女	3,621人	(-14)
（1月中の異動）		
出生	3人	転入 3人
死亡	16人	転出 9人

※この人数は外国人も含めたものです。